

平成 29 (2017) 年度 東北大学法科大学院入学試験 一般選抜 (後期)
試験科目: 刑事法 (刑法)

【設問】

以下の【事例】に挙げられた事実が真実であることを前提にして、X及びYの罪責について論じなさい (特別法違反の罪は除く)。

【事例】

1 A社に勤めていたX (男性・33歳) は、上司であるV (男性・40歳) から、職場において様々な嫌がらせを受けていたため、Vを殴って、恨みを晴らしたいと考えていたが、Vを殴ると会社を辞めなければならなくなると思い、殴ることを決意できずにいた。2015年11月1日、Xは、高校時代の友人Y (男性・33歳) に対して、Vから受けている嫌がらせについて話し、「Vを殴って恨みを晴らしたいが、殴ると会社を辞めなければならないので、決心できずにいる。」と伝えたところ、Yは、Xに同情し、「お前がA社を辞めた後は、俺が経営するB社に雇ってやる。安心して、恨みを晴らして来い。」と言ったため、XはVを殴ってA社を辞めることを決意した。Xが、Yに対し、同年11月5日午後8時に、VをA社の近くにあるC公園に呼び出し、Vを殴ろうと思うと伝えたところ、Yは、Xに対し、「しっかり恨みを晴らしてこいよ。」などと言って、激励した。Xは、Yの激励を嬉しく思い、Vを殴る決意を一層強くした。

2 同年11月5日午後8時頃、Xは、C公園に呼び出したVに対して、「今までの嫌がらせのお返しだ。」などと言いながら、Vの顔面を右手拳で殴打した。Xに殴られたVが、「何をやるんだ。」と言って、Xの胸倉をつかんだため、XはVを引き離そうとして、Vの胸の付近を両手で強く突いた。その結果、Vは後方に転倒し、左側頭部をC公園に設置されていた木製ベンチの角に強くぶつけ、全治3週間の頭部裂傷を負って出血した。

3 頭部の痛みと出血によって、Xに対して強い恐怖心を抱いたVは、Xに対して、「今までのことは謝るから、許してくれ。」と言った。Vの様子を見たXは、今なら、Vから簡単に金銭を脅し取れるだろうと考え、Vに対して、「許して欲しければ、誠意を見せろ。」と、強い口調で言った。Xが金銭を要求していることを理解したVは、Xの指示に従わなければ、さらに殴られると思い、「分かった。」と言って、自己の背広のポケットから財布を取り出そうとしたが、そのとき、Xの後方に、W (男性・22歳) ら男子大学生3名が歩いているのが見えたため、Wらに向かって、「すみません。助けて下さい。」と大声で呼びかけた。Xが背後を振り返ると、Vの声を聞いたWらが、こちらに向かってくるのが見えたため、Xはその場から走って逃げだした。

4 Xが走って逃げだしたのを見たWは、Xを追いかけ、C公園の出口付近でXに追いつくと、Xの左腕を右手で掴んだ。Xは、Wから逃げるため、Wの手をふりほどき、Wの顔面を右手拳で強く1回殴打した。殴られたWが顔を押しさえてうずくまっている間に、Xはその場から逃げ去った。Xの殴打により、Wは顔面に全治10日間の打撲傷を負った。